



トイレ動作が困難な事例

事例1 痛みが強くてトイレにうまく移れない事例

事例と問題の把握

Hさん（89歳、女性）

要介護 3

主な疾患：脳血管障害 切迫性尿失禁

排泄で困っていること

トイレへ行き便座に移乗するとき、多発性変形性関節症にて、左右肩～上腕・右足首・腰に痛みがあらわれるため、トイレに行くのが億劫になる。

排泄状態

日中→トイレにて排泄（尿・便意の訴えがあったときに介助）

夜間→オムツ内に排泄

排泄動作

尿意・便意あり伝えること可能

排泄行動全般に介助必要。 立ち上がりは手すりを持ち自力で可能

衣類の着脱全般に介助必要 後始末は準備をすれば自力で可能

生活状況

車椅子にて日中過ごすことが多い。しかし長時間の座位は痛みが出現し疲れるためベッドに横になる。

本人の意思は会話により伝えられるが、小声であり早口でもあるため聞き取りにくい。

アセスメント

①問題点

- ・両肩・右肘・右膝・両手筋萎縮
- ・両上下肢筋力低下・左腕は45°までしか上がらない。両肩から上腕・右足関節常時疼痛があり、便器に座る時痛みが増す
- ・切迫性尿失禁のためトイレ時に尿漏れが気になり移乗が困難であるにも関わらず移乗動作に集中できない

②課題

- ・筋萎縮による上下肢の機能低下と関節症の痛みが常時ある。
- ・現在のトイレでは使用が困難である。移乗時に漏らさないようにと急いでしまい適切な動きにならない。

③目標

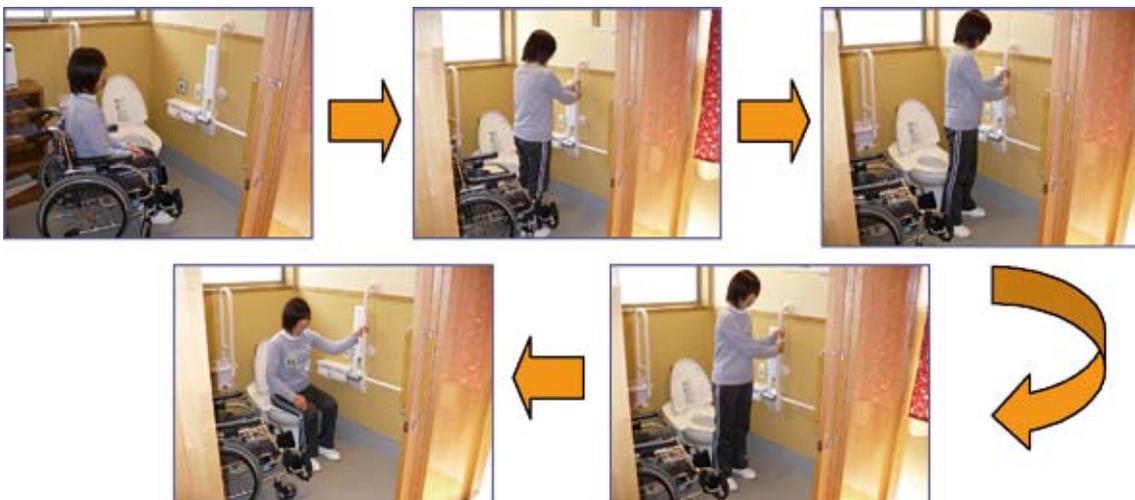
- ・移乗を楽に行うことができ、また痛みの緩和を図ることでトイレ行為に対する不安をやわらげ、安心した生活につなげる。

計画

①本人に合った移乗方法の検討

従来型のトイレ：立ち上がり→90°回転→座る→

→片手で手すりを持って位置の修正→前かがみ姿勢



新設のトイレ：立ち上がり→横移動→座る→前かがみ姿勢



実施

移乗方法の検討

新設したトイレの使用方法を職員間で確認し、使い方を習得後 H さんに実演をまじえトイレの使用方法を説明した。毎日使用しながら使用回数を増やしていくことで本人の不安の軽減に努めた。

その結果、移乗時の痛みは軽減し、「トイレが楽になった。」と喜ばれた。

振り返り

トイレは完成してみたものの、新設トイレの使用方法や、なぜこの配置に便器が配置されているのか、またどのように使用していくのか等、介助時の注意すべきことなどスタッフが共通理解できておらず、使用にあたり学習会が必要であった。

実際使用してみると移乗動作が単純になったので、移乗時に必要な動作が減り身体に生じる負担の軽減につながり、「立ち上がり・横移動・座る」の3つの動作で移乗ができるので、ねじれ等の力がかからず痛みも軽減した。そして移乗に要する時間が短縮された。



解説

排泄に必要な一連の動作（尿意、便意を感じたらトイレの位置が確認できトイレまで行き、便器の準備が出来、下着をおろし、便器に移乗し、安定した座位がとれ、スムーズな排泄ができ、排泄後陰部とでん部が拭け、下着をあげることが出来、トイレのかたづけをして、トイレから出る）は、どれがかけても安心してスムーズに排泄することができません。

今回の事例は一連の排泄動作にたいして、トイレ環境を変えることで身体的負担軽減をはかることが出来たようです。

このように環境全体を変えることは、大掛かりな改修となり、経済的な負担などを考えても実施することは大変難しいことです。そこで、ちょっとした工夫をしてみてもどうでしょうか。例えば安定した座位保持のため足台を作ってみる。前傾姿勢が取れるように、座位の前面に跳ね上げ式のテーブルや手すりを取り付ける。便器周囲の手すりの位置を変える。

アセスメントしながら本人と介助者困っていることに耳を傾け、解決するために工夫していくことで、トイレ動作が自立につながったり、最小限の援助になったりしていきます。

障害があっても一人一人が当たり前の生活をしていく中で、排泄を人に援助してもらうことはとても苦痛なことです。出来る限り自分の力であたりまえに排泄行為が出来るよう環境を整備していきましょう。

事例フォーマット

| | | | | | | | |
|--|-----|---|---|-------------------|-----|-----|--|
| 氏名: | H | 性別: | 女 | 年齢: | 89才 | 体重: | |
| 主な病名及び既往歴: 多発性変形性関節症 脳血管障害 狭心症 肝硬変症 逆流性胃炎 切迫性尿失禁(服薬にて治療済み) | | | | | | | |
| 服薬中の薬: ポラキス 3mg 3T×分3, ラクボン 3g 3×分3, アズール錠 2mg 3T 3×分3 カマグ 0.8g 3×分3, ビタミン 3c 3×分3, エクセラゼ 3c 3×分3, エンセロン 3T×分3 タケプロン 15mg 1c 1×朝, ハルシオン 0.25mg 半錠×寝前, ムコダイン 2T×分2 モーラステフ, ナバゲルンクラーム, カタリン点眼, キサラタン 0.0005% | | | | | | | |
| 排泄状況 | 日中: | トイレにて排泄(尿・便意の訴えがあったときに介助) | | | | | |
| | 夜間: | オムツ内に排泄 | | | | | |
| 排泄で困っていること(本人・家族・スタッフ別に書く) 切迫性尿失禁があり服薬治療をしているが失禁に対する不安が強く、 トイレへ行く際に焦ってしまい初乗時に、左右肩へ上腕・右足首・膝 に痛みがあらわれる | | | | | | | |
| ADLの状態 | | コミュニケーション | | 認知症の有無と症状 | | | |
| 食事: 自分で食事が食べることが多い 拘縮: 両肩・右肘・右膝に筋萎縮あり | | 会話にて伝達 | | 認知症あり 認知症自立度 I | | | |
| 尿意の訴え | | あり | | | | | |
| 便意の訴え | | あり | | | | | |
| トイレの認識ができるか | | できる | | | | | |
| 移動の状態 | | 歩行不可、車椅子使用(自力駆動不可) 立ち上がりはできるが支えが必要 | | | | | |
| 衣服の着脱の状態 | | 全体的に介助を要する | | | | | |
| 便器の準備の状態 | | 洋式トイレ | | | | | |
| 排尿状態 | | 以前の失禁を気にされて、尿意を感じたら急いで トイレに行こうとする。 日中 3~4回/日 失禁あり | | | | | |
| 排便状態 | | 日中 1~2回/日 失禁あり カマグ 0.8g 3×分3 内服中 | | | | | |
| 後始末の状態 | | 準備をすれば自力で可能 | | | | | |